平山郁夫シルクロード美術館News

The Hirayama Ikuo Silk Road Museum News

No.29
2024年3月発行

平山郁夫《仏教伝来》 1959年 169.8×221.6cm 佐久市立近代美術館蔵 再興第44回院展出品作

平山郁夫は、1952(昭和27)年、東京美術学校(現・東京藝術大学)の日本画科を卒業し、その後は主任教授であった前田青邨に抜擢され、副手として同校に残りました。当時の平山は経済的に困窮した状態であり、また少年期に体験した戦争の影響から、白血球が減少するなど肉体的にも追い詰められた時期でもありました。また画家としての創作不振もあり、焦燥の日々。そのような中、学生と共に行った八甲田山(青森県)のスケッチ旅行が転機となりました。そこは若葉が生い茂り、山々は新緑に被われ、潤いのある空気。この緑豊かな大自然の環境で過ごす中で「生きる喜びを心から教えてくれた」と言います。その後、平山が肉体的にも精神的にも輝きを取り戻しつつあった、そんなある日のことでした。東京オリンピックの聖火の記事を目にし、そこには「シルクロードの天山南路をランナーが運んだら面白い」という報道がありました。画家はこれに触発され、創作を行う上で西域や中央アジアなどを想像する日々を過ごしました。そして、1959(昭和34)年、突然に一つの絵の構想が浮びました。平山は次のように語ります。

「それはえんえんと砂漠を旅してきた僧が、オアシスに着いた情景だった。・・・命をかけてわたってきた僧が、力尽きようとする寸前に、緑したたるオアシスにたどり着いたのだ。あたりには花が咲き乱れ、木々が繁り、鳥が歌っている。旅僧の喜びはどんなに大きなものだっただろう。・・・私は彼の全身をはっきり見たような感じがした。この絵を描こう、この絵がきっと私の道を拓いてくれる。そう確信した。理屈ではなかった。直感であった。・・・作品のテーマにこれほど強く確信をもてたのは、はじめてのことだった。・・・ふと「玄奘三蔵」という名が頭に浮かんだ。」

平山郁夫「仏教と私、そしてインドの旅」(『平山郁夫全集 第3巻 仏教伝来I』講談社・1991年)

こうして玄奘三蔵をモデルとし、彼がインドでの修行を終えて、真実の仏教を伝えるため自国へ帰る場面を描いた《仏教伝来》は、画家自身の救いも託して描き上げた作品でもありました。この作品で当時の美術評論家・河北倫明氏に認められたことで、平山は日本画家として「本当のスタート」を切ることになり、これ以降、仏教、そして玄奘三蔵の足跡を追うようにしてシルクロードを辿り、数々の作品を生み出していきます。そして、その集大成となる作品が薬師寺玄奘三蔵院(奈良県)に荘厳される《大唐西域壁画》でもあります。

展覧会紹介 The Hirayama Ikuo Silk Road Museum Exhibition

開館20周年記念・山梨放送局70周年記念
「平山郁夫 ―仏教伝来と旅の軌跡」
2024年3月23日(土)～9月9日(月)

《仏教伝来》1959年 紙本彩色 佐久市立近代美術館

《天山南路(夜)》1960年 紙本彩色 佐久市立近代美術館

平山郁夫シルクロード美術館は、今年で開館20周年を迎えます。当館ではこれを記念して「平山郁夫 ―仏教伝来と旅の軌跡」と題し、平山郁夫の画業の起点となった《仏教伝来》(1959年)やその翌年に発表した《天山南路(夜)》(1960年 いずれも佐久市立近代美術館所蔵、《天山南路(夜)》は5月9日(木)より展示予定)などの初期作、釈迦の生涯を描いた「仏伝シリーズ」や、日本文化の源流を求めて旅したシルクロード各地を題材とした作品や制作に関連した資料を展示します。本展は、佐久市立近代美術館・平山郁夫美術館の特別協力のもと、若き日の平山郁夫の創作を振り返りながら、多彩な平山郁夫の絵画世界をご紹介いたします。

Information

◆会　　期　2024年3月23日(土)～9月9日(月)
◆開館時間　午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
◆観 覧 料　一般1200円／高・大学生800円／小・中学生無料
※障がい者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引
◆主　　催　公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館、山梨日日新聞社・山梨放送
◆特別協力　佐久市立近代美術館、平山郁夫美術館、株式会社早野組
◆後　　援　山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、朝日新聞甲府総局、読売新聞甲府支局、信濃毎日新聞社、NHK甲府放送局、八ヶ岳ジャーナル、テレビ山梨、エフエム富士、エフエム八ヶ岳

他会場で見られる平山郁夫シルクロード美術館コレクション

◆平山郁夫美術館(広島県尾道市)
「世界の巨匠たちが子どもだったころ」展
2024年3月16日(土)～5月26日(日) 内容:絵画2点

◆平山郁夫美術館
「蜀・四川・中国」展(仮称)
2024年9月21日(土)～11月24日(日) 内容:絵画約10点

◆パナソニック汐留美術館(東京都)
「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」(巡回)
2024年4月6日(土)～6月9日(日) 内容:コレクション25点

◆神戸市立博物館(兵庫県)
「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」(巡回)
2024年6月22日(土)～8月25日(日) 内容:コレクション25点

◆佐久市立近代美術館(長野県)
「平山郁夫のスケッチ帳
―仏教の来た道・シルクロードをたどる旅」展
2024年7月13日(土)～9月1日(日) 内容:絵画約100点

◆龍谷大学 龍谷ミュージアム(京都府)
「文明の十字路・バーミヤン大仏の壁画と太陽神・弥勒信仰
―ガンダーラ・中央アジアから日本への展開」展(仮称・巡回)
2024年4月20日(土)～6月16日(日) 内容:コレクション18点

◆三井記念美術館(東京都)
「文明の十字路・バーミヤン大仏の壁画と太陽神・弥勒信仰
―ガンダーラ・中央アジアから日本への展開」展(仮称・巡回)
2024年9月14日(土)～11月12日(火) 内容:コレクション18点

◆島根県立美術館
「平山郁夫 シルクロードコレクション」展(仮称)
2025年1月17日(金)～3月10日(月)
内容:絵画約50点、コレクション約100点

※当館並びに上記開催館については、災害などにより、やむを得ず展示が中止となる可能性があります。ご来館前にHPをご確認いただくか、お電話にてお問い合わせください。

平山郁夫シルクロード美術館 開館20周年に寄せて

2004（平成16）年7月にスタートした当館も、本年、開館20年という節目の年を迎えました。この間に皆様から寄せられました温かいご支援とご協力に心より感謝し、厚く御礼を申し上げます。

当館は、戦後の画壇を代表する日本画家平山郁夫の絵画約300点と制作に関する資料、平山夫妻が半世紀近くに渡って収集してきたシルクロードのコレクション約1万点の寄贈を受け、これを多くの人々に展示公開するため、豊かな自然と景観に恵まれた八ヶ岳南麓、北杜市長坂町小荒間の地に設立されました。

当館の隣には、前身となった「八ヶ岳シルクロードミュージアム」（1999年～）の建物がありますが、それはかつて美知子夫人（当館名誉館長）が長年、集めてきたシルクロードの手工芸品や染織品などを親しい人たちとともに鑑賞するための小さなプライベートミュージアムでした。やがて、このミュージアムの運営母体であった鎌倉二階堂の「シルクロード研究所」（1988～）が2004年に法人化され、7月にはこの「平山郁夫シルクロード美術館」が創設されました。

しかし、まだその頃の当館は、平山郁夫の大作を展示するスペースも設備も不十分でした。そこで平山郁夫本人が先頭に立って、多くの方々のご寄付を募り、新館の増築を行い、2008年7月、リニューアルオープンをいたしました。新館完成記念として、「平山郁夫と大いなるシルクロード」展を開催し、当館2階の大展示室にはラクダのキャラバンを描いた大作「大シルクロードシリーズ」が並びました。

こうして美術館は現在の姿となり、翌2009年5月には清里の牧場で、平山郁夫がみずから地元の小学生のための絵画教室を開催しましたが、その後体調を崩し、その年の暮に79歳で亡くなってしまいました。当財団は失意の中、故渡邊明義先生（当時の当館代表理事、元東京文化財研究所長）のご指導のもと、公益財団の認定を2010年6月に取得、当館は公益財団法人の美術館としての新たな一歩を踏み出しました。このことによって、美術館の使命はより大きなものとなり、平山郁夫の絵画とシルクロード文化の普及とともに、地域の文化観光に貢献できる文化施設としての役割を担うこととなりました。

昨今は、社会情勢も運営状況も厳しさを増すばかりではありますが、この20年間に頂いたさまざまなつながりや経験を活かしながら、これまでに寄贈を受けた多くの収蔵品を活用し、地域の皆様に、そして遠くから来訪されるお客様にも愛される美術館をめざし、より一層の充実を図ってまいります。皆様から頂いたご厚情、ご支援に改めて感謝を申し上げ、皆様のさらなるご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。

平山郁夫シルクロード美術館

開館式の様子（2004年）

第一回 平山郁夫絵画教室の様子
（於:清泉寮・2009年）

中国における当館所蔵品展について(5)

平山郁夫シルクロード美術館 館長
平山 東子

昨年2023年3月から秋まで当館では、「崑崙(こんろん)の西から」というタイトルの展覧会を開催しました。これは2018年夏に敦煌研究院を起点として始まった、当館のシルクロードコレクションによる「平山郁夫のシルクロードの世界(平山郁夫的丝路世界)」の帰国を記念する展示でした。本コラムで連載をしていましたのでご存じの方も多いと思いますが、この展覧会は敦煌のあと、西安の陝西省歴史博物館、北京の国家博物館を回り、さらに洛陽、遼寧、深圳など合わせて13都市を巡回し、総入場者数は計150万を超える大ロングランとなりました。巡回の途中ではコロナ問題もあり、日本側が立ち会えない中で、会場の博物館も閉鎖されたり、予定がキャンセルになったり厳しい時期もありましたが、中国の関係者の方々のご尽力で巡回は続き、昨春、ようやく作品が5年ぶりに戻ってきました。2月末に上海を出港した中国のコンテナ船(マイルドソナタ号、中国名では通鳴号)で帰国するところを一目見ようと、入港日の朝、城南島海浜公園で待ち構えていたのですが、貨物を満載した長い船体が目の前を横切り、大井埠頭に入って行くところを見た時は、思わず胸が熱くなりました。

帰国する作品を積んだコンテナ船

2023年夏には、2020年から5会場を巡回した「シルクロードのガラス展 ―さまざまな色どり(異彩紛呈)」展が終了したので、作品点検と立ち合いのため、最終会場の海南省博物館を訪問しました。博物館のある海南島は、海南ライスでも知られる中国最南端の島で、海のシルクロードの一大拠点です。このガラス展は、325点と作品数も多く、古い銀化した古代西アジアのガラスや、細かいモザイクガラスやローマ時代の薄い吹きガラスなども含まれていたので、巡回中もずっとヒヤヒヤしていたのですが、無事、全作品帰国することができました。さらに、この展覧会でメインを飾っていたローマ時代のゴールドバンドガラスは、帰国後もそのまま当館には戻らず、山梨県立美術館から始まった「テルマエ展」の巡回に参加し、この春は汐留のパナソニック美術館、夏は神戸市立博物館でも展示される予定です。

海南島でのガラス展の展示風景
ここでもゴールドバンドガラスが人気

海南島でのシルクロードのガラス展の閉幕と作品の梱包を見届けたあと、山九の清水さんと北京迅捷公司の岳嬌さんとお別れし、黄山美術社の彭さん、北京鑑鐘公司の劉さんに連れられて、四川、深圳、長沙、北京の博物館をまわりました。成都市博物館(四川)では、2022年8月から巡回中の「シルクロードの金属 ―輝ける記憶(燦爛的記憶)」展を視察しました。巡回展も会場ごとに地域色があるのですが、成都での金属展は、会場づくりも独特で、古代中国の青銅器と中央アジアの金属器との比較に強い関心があるようでした。

さらに今春からは、一連のシルクロード中国巡回展シリーズの第4弾として、「シルクロードの陶器(火と土)」展がはじまります。企画を担当された清華大学芸術博物館の談晟広先生によると、これまでに巡回したガラス展は「火と砂」、金属器展は「火と金」がテーマだったので、今度の陶器展は「火と土」をテーマとして、この3つの展覧会を「シルクロード 火の三部作」として完成させたいとのことでした。

成都市博物館(四川)での
「シルクロードの金属器」展の行列

美術館ノート

◆文化庁による文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）を活用し、様々な事業に取り組みながら館の磨き上げを続けています

2Fカフェエリアの活用

地域の文化活動を広く紹介することを目的に、2Fカフェエリアの整備を進めており、今季はその活用として、3つの事業に取り組みました。

クラフトマップ「おらんうーたん」発行20周年企画「杜の作家たちのコラボ作品展」の開催

当館のある北杜エリアには、アートとクラフトのアトリエが多くあります。作家たちは独自の世界を作り上げながらも時には共同制作で作品を生み出しています。その作家同士のコラボ作品はこの地域ならではの特別な作品です。今回それらのコラボ作品を紹介する展覧会を開催しました。展覧会では当館の平山美知子名誉館長が制作したアクセサリーも特別出展として展示し、活動の記念となる作家を紹介する大型パネルも制作しました。

「神山奈緒子～山を歩く 街を歩く～」展の開催

ワイン&クラフトフェスタと日程を合わせる形で、甲府市在住のイラストレーター、神山奈緒子さんの展覧会を開催しました。展覧会では、趣味の山歩きを通してたくさんの自然に触れる中で感じとった、愛らしいモチーフやかわいい動物たち、街歩きを通して出会ったふと心に残る風景など、どこかへ歩き出すことで感じた、心を豊かにしてくれるものを主にペンで描いた作品を展示していただきました。

「平山郁夫シルクロード美術館・山梨県立美術館連携企画 アート&ワインスペシャルツアー」の開催

当館及び山梨県立美術館で開催している企画展「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」に合わせて、地域の資源となる「文化」「自然」「食」を総合的に体感できる文化観光体験ツアーを開催しました。夕食は、当館内にてレストラン亜絲花の藁谷シェフのお料理を、特別展示した美術品、そしてシニアソムリエの小牧康伸さんの解説とともに『well-being』を実感できる体験をお楽しみいただきました。

スマートフォンを用いた音声ガイドへの移行

当館では、機器の貸出による音声ガイド及び、携帯を用いてQRコードで多言語化された文字情報を閲覧できるサービスを行ってきました。このたび、携帯を用いて多言語化された音声を聞けるサービスも開始し、国内外からの来館者の皆様に向けたサービスを充実させました。

◆第14回 シルクロード研究会の報告

紅梅の花が咲く2月17日（土）、鎌倉市二階堂の平山郁夫画室「庫庵」では、第14回シルクロード研究会を開催しました。今回は「上代染織」をテーマとし、専門家をお迎えして講演会を行いました。講師は、東京国立博物館の勝木言一郎先生（上席研究員／東洋美術史・仏教美術史）・沢田むつ代先生（名誉館員・客員研究員／東洋・日本染織）のお二人で、当館の《菩薩立像幡》や《法隆寺裂》について語っていただきました。約1時間半の先生方のお話の中で、当館の上代染織コレクションの背景を知ることができ、参加者をはじめ、役員・スタッフ共々、大変学びになる会でもありました。講演後は、先生方から上代染織コレクションの解説もあり、参加者の皆様は古代のシルクロードに思い馳せながら耳を傾け、普段の日常では味わうことのできない一時を過ごすことができました。当館学芸室でも先生方からコレクションの知見をご教示いただけたことで、展示や解説などに反映できたらと思います。

冒頭挨拶する館長

沢田先生によるコレクションの解説

なお、今回のシルクロード研究会についても新型コロナ感染症対策（マスク着用等）を講じた上で開催しました。

沢田先生 講演の様子

勝木先生 講演の様子

◆美術館スタッフ研修旅行

コロナの影響で4年ぶりの開催となった研修旅行。秋が深まる10月31日（火）、美術館スタッフ22名で鎌倉市内を訪ねました。昼食は小町通りにある「峰本」で精進料理をいただき、普段顔を合わせる機会が少ないスタッフ同士が親睦を深めました。その後、「鏑木清方記念美術館」を見学し、担当学芸員の方から清方作品をはじめ、復元された旧邸宅のことなど、大変分かりやすく解説していただきました。最後に当館付属施設となる平山郁夫画室「庫庵」へ。ここでは鎌倉事務局のスタッフとも交流し、また館長から平山画伯が旅先で描いたスケッチブックや画材など、貴重な資料を見せていただきました。これらを改めて解説と共に鑑賞していくと、平山郁夫作品の造詣を深める学びの場となりました。合わせて隣接する茶室「寂静庵」も見学し、茶室からの美しい庭園を眺めながら、各々、平山郁夫画伯について語るなど楽しい一時を過ごしました。

○コンサート・ワークショップ

北杜高校ギター部 ギャラリーコンサート
- 開催日：3月25日（土）
- 演奏者：北杜高校ギター部
- 参加者：約200名（2部制）

大平 清 ギャラリーコンサート
- 開催日：6月11日（日）
- 演奏者：大平 清（トルコ音楽演奏家）
- 参加者：約100名

日本画・不思議な絵の具であそぼう
- 開催日：6月24日（土）
- 講　師：金子仁香（日本画家）
- 参加者：3名

恐竜全身復元模型製作
- 開催日：7月22日（土）
- 講　師：徳川広和（古生物復元造形作家・パレオアーティスト）
- 参加者：10名

ティラノサウルス頭部復元模型製作
- 開催日：7月23日（日）
- 講　師：徳川広和（古生物復元造形作家・パレオアーティスト）
- 参加者：8名

恐竜ジオラマ作り体験
- 開催日：7月28日（金）、29日（土）
- 講　師：宮沢叔恵（グリーンベル）
- 参加者：66名

恐竜ワイヤーアート作り体験
- 開催日：8月9日（水）、10日（木）
- 講　師：松田広昭（デザイン工房 昴）
- 参加者：25名

復元画ワークショップ
- 開催日：8月19日（土）、20日（日）
- 講　師：小田隆（京都精華大学教授）
- 参加者：17名

特別講演会「古代ローマ 遺跡とワインと温泉と」
- 開催日：9月30日（土）
- 講　師：青柳正規（山梨県立美術館 館長など）
- 参加者：約150名

特別講演会「北杜のワインのこれから」
- 開催日：10月1日（日）
- 講　師：上村英司（北杜市長）
- 参加者：約100名

○第14回 絵手紙コンテスト受賞者発表

第14回目となる昨年度は4つのテーマで作品を募集しました。コロナ禍の影響により、館内での絵手紙スペースは撤去しましたが、各々の自宅や学校などで制作した作品の中から、受賞した作品を名誉館長のコメントと共にお楽しみください（氏名等は敬称略とさせていただきます）。たくさんのご応募ありがとうございました!!

<2022年のテーマ>
①○○の来た道
②世界平和
③美術館内で発見したこと
④わたしのSDGs

●最優秀賞（総部門）

小林 龍河
字も仏さまもよくできました。平和はきっと来ます。

●優秀賞（幼児部門）

高木 風卯
シルクロードか何処かの国の音楽が聞こえてくるでしょう。

●優秀賞（中高生部門）

田中 輝
よく見ていますね!

鶴田 弥
小さくてもよく見ています!

菊嶋 一帆
テレビで戦争の惨状がわかりますね。どうして戦争をしている人たちには分からないのかしら。

●優秀賞（小学生部門）

輿石 湊人
ラクダに乗って遠くへゆきたいなら立派な足をかいてね。

林 佑玖
シリア砂漠の立派なパルミラ遺跡は、イスラム（原理主義者）によって再建出来ない位、こわされました。

田中 はるあ
シルクロードは暑いし、危険がいっぱいです。

小林 咲月
戦争はなくなってほしいですが、丈夫な舟を作ってほしいです。

三井 誠
みんなの祈りが聞けれるといいですね。

斉藤 明日香
膠（にかわ）は動物の皮骨などを煮詰め乾かした棒状のもの。これを絵具に用いる時は適宜折り、膠なべに溶かし、本人が描く絵に必要な絵具を皿にとり、絵具を入れると紙や板に接着する。

●優秀賞（大人部門）

池田 有希
私も此のごろは小さなほころびなどは、自分でほころんでいます。針をなくすのがこわいので、注意しています。

黒沢 洋子
武器を作るより、子どものために美味しい果物を作る様になったらいいのになと思ひます。

木村 直子
この様な嬉しい事を云って下さる方に心より御礼申し上げます。

渡辺 和徳
夫の平山は中学3年の時、広島にいました。外傷はなかったのです。

山口 明彦
途中で寝てしまいそうな駱駝ですね。

木野田 博彦
この仏像を作った人はどんな人だったのでしょうか。その素晴らしさにいつも立ち止まります。

木野田 博彦
大根やかぶ、ニンジンのへたは調理の時、切って捨てていましたが、大変良い事を教えていただいたのでやってみます。

高木 美卯
此の美しいシルクロードの絨毯を作り出す、仕事の前の糸つくりが大変な事を知り、絨毯の大切さがわかりました。

間中 美香
シルクロードには、このような古くて美しいガラスがたくさんあります。私は今出来の新しいものはほしくありません。

2024年上期　開館カレンダー

4 April

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5 May

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

7 July

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8 August

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 September

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10 11 12 13 展示替えのため休館

3/23(土)～9/9(月) 開館20周年記念展「平山郁夫−仏教伝来と旅の軌跡」展
4/20(土) 学芸員による見どころ解説　5/18(土) 学芸員による見どころ解説
6/15(土) 記念イベント「平山郁夫を語る」&ミニコンサート
7月上旬～8月下旬 コーナー展示「亀の化石(仮)」展
9/14(土)～12/27(金)(予定)「中央アジアの染織(仮)」

※9/10(火)～13(金) 展示替えのため休館
※4月～9月は開館(無休)
※災害などにより、やむを得ず中止・延期となる場合があります。

賛助会だより　賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典(詳しくは美術館HPをご覧ください)のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ち申し上げております。

◆会　　費　個人会員……　10,000円
家族会員……　15,000円
法人会員……100,000円

◆受付期間　随時受け付け(毎年7月に更新。12～3月までにご入会の方は初年度の年会費は半額、4～6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効)。

◆申込方法　申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙ご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ　次回の展覧会案内

「中央アジアの染織(仮)」

2024年
9月14日(土)～
12月27日(金)(予定)

平山郁夫
《織物工場 ウイグル民族の女性
和田(ホータン)》

平山郁夫シルクロード美術館
HIRAYAMA IKUO SILK ROAD MUSEUM

無料Wi-Fiサービスをご利用いただけます

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第29号 2024年3月発行
発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6
Tel 0551-32-0225
URL https://www.silkroad-museum.jp

ミックス
紙
FSC® C023103